武蔵野市エコプラザ（仮称）運営会議（第１回）議事要録

日　　時　令和元年８月６日（火）開会 午後７時　閉会 午後９時
場　　所　武蔵野市役所 812 会議室
出 席 者　委員８名、事務局２名
　　小澤紀美子委員長、鈴木雅和副委員長、池上敦子委員、中西信介委員、
　　井口大也委員、塩澤誠一郎委員、越智征夫委員、木村浩委員
欠 席 者　古川千佳委員、梅田彰委員

議事等　１　エコプラザ（仮称）運営会議委員の委嘱状の交付
　　２　委員自己紹介
　　３　会議設置要綱（案）について
　　４　委員長・副委員長選出
　　５　会議実施要領（案）について
　　６　エコプラザ（仮称）の概要について
　　７　エコプラザ（仮称）事業の進捗状況について

１　エコプラザ（仮称）運営会議委員の委嘱状の交付

委嘱状交付後、恩田副市長より挨拶。

２　委員自己紹介

発言者	要旨
委員	成蹊学園で昨年４月に開設したサステナビリティ教育研究センターの所長をしており、大学では理工学部の教員をしている。同センターの活動と武蔵野市の取り組みは、目指す方向が同じと感じている。何か楽しいことが一緒にできたらと思う。
委員	まちの保育園吉祥寺でコミュニティコーディネーターをしている。まちの保育園吉祥寺は約４年半前に井之頭小学校の近くにできた施設で、子どもと地域の接点になれるよう仕事をしてきた。子どもに、教育に開かれた施設になれるよう役立てればと思う。
委員	武蔵野市立小中学校のＰＴＡ会長が参加する連絡協議会から今年度の会長として出席している。緑町一丁目で生まれ、地元の小・中学校を卒業し、今は八幡町二丁目に住んでいる。武蔵野四中のＰＴＡ会長をしているが、武蔵野市のことしか知らない。地域に育てられたおかげで今があると思っている。ＰＴＡという立場を生かし、エコプラザ（仮称）が子どもたちに活用できる場になってほしい。この地域に住んでいるので、

	市民から見て良い施設になってほしいと願って参加している。
委員	武蔵野クリーンセンター運営協議会から推挙していただいた。運営協議会はクリーンセンターの運営を監視するために、周辺３団体で設置された長い歴史のある会議。私自身はその３団体の１つ、緑町三丁目町会から、クリーンセンター建て替えにあたって、最初の周辺整備協議会に参加し、その後エコプラザ（仮称）検討市民会議にも参加して、10 年ぐらい関わっている。思いとしては並々ならぬものがあり、良いものができると思っているが、できた後は遠くから見守る立場でいたい。
委員	市の環境部長をしている。クリーンセンター建設に関わる業務を 10 年担当してきたので、行政側としての思いがある。エコプラザ（仮称）は、子どもから大人まで誰もが環境を学べて行動できる場にしたい。いろいろな分野の方にお集まりいただいた。環境について学び、行動ができるところまで持っていきたい。来年 11 月スタートで、そこからが本番、よろしくお願いしたい。
委員	武蔵野市 16 館のコミュニティセンターの代表としてきている。私は昭和 27 年、小学校２年生の時から緑町３丁目に住んでいる。その当時この場所は、サッカー場や野球場として、塀のないスポーツ施設があり、子どもたちがのびのびと凧揚げ等ができた。昭和 53 年頃に三鷹市と共同処理をしていたごみ処理場の近隣住民から、武蔵野市のごみを三鷹市へ持ち込むことについて反対運動が起き、武蔵野市も自区内でごみを処理することになった。該当対象地域住民の苦難の選択を乗り越えて現在の場所に焼却処理場が竣工した。時は経過して施設の老朽化が進み、平成 18 年頃からクリーンセンターの建て替え検討がスタートした。基本計画策定委員会に参加し、提案や議論を重ねてきた。未来の地球環境を維持・改善するために、クリーンセンターと環境啓発施設をワンセットにして、未来の環境・持続可能について、武蔵野市から発信してほしいという地域住民の意見を基に整備が進んでいる。100 年先の社会環境に継続できるように発信できるのがエコプラザ（仮称）だと思う。地球の環境を救いたいという終わりのない戦いを継続できるようにお手伝いをしたい。
委員	筑波大学で芸術系の環境デザインを 25 年くらい教えていた。２年前の退職時にごみがたくさん出て落ち込んだが、今、ごみ処理施設の運営に携われるというのはおもしろいと思っている。 60 年以上武蔵野市に住んでいるため、私も家内も、子どもたちも市内の小中学校卒で、来年は孫が市内の小学校に入学する。孫のことが一番気になる。皆さんも子どものことを心配されていたため、意を強くして

	いる。
委員	ごみ市民会議で委員となったことがきっかけで、新しいクリーンセンターをつくる時に、市民からの推薦で委員長となって早10年。 中野に住んでいたがクリーンセンターの起工式の時に武蔵野市に住むと宣言し、今は市内のＵＲに住んでいる。エコプラザ（仮称）を上手く運営することを目指して、チェック機能を持ったこの会議で皆さんと共に考えていきたい。 昨日はＪＩＣＡの研修で、クリーンセンターの見学とこれまでの経緯をお伝えする機会があった。武蔵野市は市民参加で協議していることを伝えたら皆さん驚いていた。 専門は建築だが、教育分野に方向転換し、ＥＳＤ学会の副会長をしている。エコプラザ（仮称）の基本理念やコンセプトについて、鈴木先生と一緒に時間をかけて市民会議で検討してきた。皆さんの新たなお知恵で、より良い運営をしていきたいと思っている。よろしくお願いしたい。

３　会議設置要領（案）について

発言者	要旨
事務局	資料１「武蔵野市エコプラザ（仮称）運営会議設置要綱」、資料２「武蔵野市エコプラザ（仮称）運営会議の設置について」について説明。

４　委員長・副委員長選出

小澤紀美子委員長、鈴木雅和副委員長が指名により選出された。

発言者	要旨
副委員長	連携会議と並行していることから、連携会議の役割をどのようにしていくか、運営会議には何が期待されているかを考えながら進めていく必要があると思っている。
委員長	エコプラザ（仮称）は進化していく施設。常にイノベーションしていき、参加人数だけで評価する施設ではない。サステナビリティが問われる中で、当事者が行動変容していくことが重要で、誰かに言われたとしても、なかなか変わるものではない。教育は学生の発展を促すことが重要で、腑に落ちないと変わらないと。私自身は困難に立ち向かうことを修行だと思い、あえて困難に向かう所があるが、最近はそうしたことを避ける傾向にある。自ら火の中に入らないと世の中は変わらない。クリーンセンターの建て替えも、温暖化防止と地域力アップ、そしてまちづくりにつなげていくことを目指した。エコプラザ（仮称）については、評価も含めて学びの成果をまとめたポートフォリオのようなものを、当

	事者としてどのように意識していくか、指標では数値化できないところについて、忌憚のない意見交換ができるとありがたい。ぜひ皆さんと議論を進めていきたい。

５　会議実施要領（案）について

発言者	要旨
事務局	資料３　「武蔵野市エコプラザ（仮称）運営会議実施要綱」を説明。
委員長	問題ないか確認いただきたい。
	（反対意見なし）→（案）を削除

６　エコプラザ（仮称）の概要について

発言者	要旨
事務局	資料４　「エコプラザ（仮称）の概要について」と参考資料「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方」（以下「市の基本的な考え方」）、参考資料「武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針」（以下、「管理運営方針」という）について説明。
委員長	手探りで連携会議と運営会議が始まったが、来年 11 月のオープンをみんなで喜べるように、乗り越えていきたい。今後は、高校生など若い人たちに入ってもらうことが大事になる。参考資料の「管理運営方針」に関連して、施設の管理をしつつ、学び合う、育て合うことが求められるため、12 ページのような仕組みをつくっている。
副委員長	参考資料「管理運営方針」13 ページの運営体制では、運営会議は連携会議からの提案に対して意見を言い、評価・検証して戻す形になっており、インプットがないと動けない。チェック機関として年３回しか開催しないため、運営会議の意思をどのようにフィードバックするかが課題。施設の実質的な運営を行う連携会議が出す具体的なアウトプットの質などに依存することになるのではないか。 運営会議の委員も、エコプラザ（仮称）検討市民会議で議論してコンセプトなどを理解している方と初めての方がいるので、常にコンセプトに立ち戻ると、なかなか先に議論が行かないかもしれない。 これから、具体的に人・物・金・情報などが、どう動くかということをテーマにして形にしていかないといけないと思うが、具体的な議論をどうしていくか。運営会議が受取って評価するネタがほしい。
委員長	１回目の連携会議に参加したが、地域で活動している方は自分たちの活動はよく知っていて、エコプラザ（仮称）でやろうとしている意義もわかっている。私は２回目の連携会議には出ていないが、少し今は足慣

	らしと考えている。
副委員長	オブザーバーとして２回目に参加した。エコプラザ（仮称）のコンセプトはごみの減量からはじまって、環境を良くすることである。連携会議では、皆さんの考え方がそれぞれ違うから、あまりきちんと決めてしまわずに、環境を良くしてきたのは今までのこうした方向性が良かったからということで、いろいろなみんなの意見を出し合っているのが良いと思う。
委員長	過去に学び、現状を知ると、こんなに世界各地が異常で、生態系を維持できるかわからない状況にあることがわかる。こうした中、未来がどうあったら良いかを考えること、そこに集約される。資料４ 「エコプラザ（仮称）の概要について」の８ページにあるように、お互いに磨き合う、進化しながら磨くということが大事だと思う。例えば、こまめに電気は消しているが、どうして消さないといけないか分からない人が多い。それを紐解くために、温暖化、ＳＤＧｓが必要となる。ＳＤＧｓの 12 番「つくる責任・使う責任」と 14 番「海の豊かさを守ろう」を考えると、もっと発想が生まれるのではないか。議論の結果を簡潔に集約して絵に描いているので、一つ一つ説明して理解してもらう必要がある。子育てのコミュニティでやっていることや、未来につなぐというコンセプト、この地の歴史、クリーンセンターがなぜこうした外観になっているかは、すべてつながっている。雑木林のイメージのコンセプトなど、お互い共通の価値があると思う。足踏み的に見えるかもしれないが、過去の遺産を継承しながら未来へと発想する。共に考えて、共に創り、武蔵野市から日本に、世界へと発信していくというイメージで考えている。
副委員長	運営会議と連携会議の違いがどのようになるのか、それぞれの役割分担がよくわからない。
委員	エコプラザ（仮称）について意見を言いたければ、まず連携会議に来てくださいという形になっている。みんなで連携しながら意見を出して、それを運営会議に提案するという形。連携会議には、実際にいろいろな方が参加しているし、今後は行政も情報共有の中に入っても良いのではと思っている。エコプラザ（仮称）の運営に、当事者意識を持ってもらう上で、オープン前からこうした場をはぐくむことはすごく良いと思う。一方で、実際にオープンした後のことが少しイメージできない。例えば、連携会議から提案が出る前に、実際に市と運営会議とで話し合って決めるようなことも出てくるのではないか。連携会議に入っていない人から、直接市に意見をする人もいると思うし、そうした門戸は開かれ

	るべきだと思う。連携会議で検討したことが、運営会議に入ってきて、意見として市におりてくるという形になっているが、市から運営会議に諮るという動きも出てくるかもしれない。直接、運営会議に諮って意見をもらうこともあると思う。そうした矢印を資料４「エコプラザ（仮称）の概要について」Ｐ８の図に引けば、すっきりするのではないかと思う。
委員長	この運営会議はご意見番だけではなく、オブザーバーとして連携会議にも関わることができる。ワークショップ等で情報を共有できるのではないかと思う。
委員	昨年４月にサステナビリティ教育研究センターをつくった。４年前から立ち上げようとして、皆さんが今、悩まれていることを私たちも悩んできた。一番苦労したのは、立ち上げた当初、人数が少ないところから提案書をつくり、小中高大と教職員がたくさんいるため、意図が伝わるようにプロジェクトチームや委員会をつくったり、最後に運営委員会をつくったりということがあった。今、伺っていた話とちょうど重なって、始まったことで、様々な方が参加してきて、それが広がる良い手段になったということに後から気づいた。やはり立ち上げる時は、楽しい感覚になってきて、一気に広がるイメージがある。
委員長	大事なご指摘に感謝する。
委員	来年 11 月の開設なので、まさに今、同時に進めているところで、答えがなくモヤモヤ感がある。参考資料「市の基本的な考え方」の８ページに基本理念がある。「エコプラザ（仮称）が目指すもの」と「日常生活における環境問題の気づき」をベースに、低炭素モデルの実現、地域力の向上、まちづくりとの連携、これは 10 年間ずっとクリーンセンターの建設からエコプラザ（仮称）につなげて掲げてきたテーマである。これを成し遂げると、ＳＤＧｓの達成に貢献することにつながる。コンセプトは参考資料の「市の基本的な考え方」９ページ、「みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」で、その下に（2）基礎となる考え方があって、①様々な環境に関する啓発　②市民参加・市民提案、そして 10 ページの③市民団体・事業者・市など異なる主体の連携、これが今、連携会議として実現しているところ。大事なのは、次の④進化しながら磨くということ。完成形としないで、時代のニーズやいろいろな環境問題も日々動いているので、それに合わせて進化していく施設。こうしたことに応えてやっていくということを連携会議でディスカッションしていく。もちろん⑤のクリーンセンターの歴史の継承と連携がベースにあるというのは、先ほどご説明したとおり。③、④をどのようにやっていくかというのが連携会議である。来年 11 月まではフィールドが

	ないため、何をするのかイメージが共有しづらい面があるが、これから次第に固まってくると思う。オープンすれば、連携会議の中から自由に提案などが出され、運営会議との関係性などもはっきりしてくると考えている。全国にない新しい施設をつくるという構想で、運営会議はそれが本当にうまくいっているかを議論する場である。今は両会議とも走りながら、来年 11 月に向かって並行的に動いているが、スタートすれば役割が自ずとはっきりしてくると考えている。
委員	やりたいことがある人がたくさんいて、それを実現できるようにサステナビリティ教育研究センターをつくろうと考えた。始めてみると、いろいろと見えてきて、それでつくっていったというような状況だった。本当にみんながやりたいという潜在的にやりたいことが、センターができたからできるようになったねと言っていたのが、今度のエコプラザ（仮称）と重なる。私たちもその一部になれたら良いなと思っている。
委員長	「進化しながら磨く」という言葉は、当初はメタボリズムと表現していたが、良い言葉に変えられたと思う。やはり人間が進展、発展していくには側面から補強した方が良い。
委員	連携会議の検討を待って運営会議を年３回行うことになっているが、設置要綱の第６条には、「運営会議は、必要に応じて委員長が召集する。」となっているため、運営会議として主体的に開催できると考えて良いか。運営会議として議論したいという発議があって、委員長がそれに同意してくれれば開催することは可能か。
事務局	可能だが報酬を設定しているため、回数を増やしたいということであれば、予算を考えないといけない。
委員	先ほど副委員長が懸念されていたところなので確認した。検討事項を待って検討するだけでなく、私たちも検討したいことがあればその場を設置できるかどうかということ。予算の問題ではない。
事務局	基本的に、重要事項を運営会議に諮らないことはまずない。連携会議とのすみ分けで言えば、連携会議では、私たち市も一つの主体・一員と考えている。進行やファシリテーターも、自発的に市民の皆さんの中で協力していただける方がいれば、どんどんお願いしたいし、どのようなことをしたいかということも、一緒に議論して考えながらやっていきたい。逆に運営会議は、連携会議で外れた方向にいかないように歯止めをかけてもらうなど、市の施策に則ってやっていくように抑えていただく会議と考えている。他の分野とのバランスを取りながら検討していただきたいと思い、運営会議には、環境以外の分野からも参加していただいている。

委員	理解した。
委員長	初めて参加のお二人の委員から何かあればご発言いただきたい。
委員	エコプラザ（仮称）自体が市民参加、市民が主体となって運営していくことを象徴する施設になっていくと思うので、連携会議主導のボトムアップ型というか、連携会議で様々な主体からの意見が出てきたものを、チェック機関として、間違った方向にいかないように確認するのが運営会議の機能なのだと理解した。 また、運営会議の中で出た議題の中から、もう少しこうしたことを広く市民に問うても良いのではないかという話がきた時に、運営会議から連携会議側に諮問する形もあって良いと感じた。運営会議から連携会議の方に、こうした議題で議論してくださいと投げて、次の会議の時に決定していくというような流れが次第にできてくると、待っているだけではなく、こちらからきっかけをつくっていくような運営会議であっても良いと考えた。
委員長	子育て中のお母さんたちのエネルギーを使えないかなと思っている。温暖化や低炭素社会をつくるということは健康がキーワードになり、お母さんたちの関心事になりうる。 また、エコマルシェの絵本のかえっこには 150 組ぐらいのファミリーが来る。お子さん連れの外国人のお父さんが子どもに絵本を訳している姿を見かけることがある。お子さんが良い思い出を持って、母国に帰った後も、日本のことを考えてくれるかなと期待することがある。それこそがＳＤＧｓの第一歩になればと思う。今回、子どもや教育にチャンネルを広げられる委員の方がお二人いるので期待している。
委員	親という切り口から話をすると、お母さんたちはとても忙しい。東京都で０歳児のお母さんたちに限定した事業を進めるプロジェクトがあって、０歳児だと育児休暇を取って会社を休んでいるため、そのタイミングで地域貢献をしたいと思っているお母さんたちが多いことがわかった。１歳になると会社に復帰しなければならないし、子どもたちも歩き回るようになるが、０歳なら抱っこ紐で会議に出てくることができる。その後、子どもが中学生くらいになるまでは、地域に出る時間は取れないため、子どもが中学生になって、ようやくまた活動したり、パートで働きに出たり、したいと思い始める。その間、およそ 10 年以上にわたり、お母さんたちの大事なパワーや考え方が得られないため、今回のプロジェクトは良い機会だったと感じた。 資料４ 「エコプラザ（仮称）の概要について」８枚目の「３.エコプラザ（仮称）の運営について」で「連携」というところに、「協議会など」

	とあるが、これは何を差して協議会としているのか。
事務局	４期９年にわたり議論されてきた「新武蔵野クリーンセンター施設・周辺整備協議会」の委員の皆さんと、２年間にわたって引き続き議論してくださった「エコプラザ（仮称）検討市民会議」委員の皆さんには、個別にこの連携会議のお誘いの文書を差し上げている。今年度は環境関連の団体などを中心としているが、徐々に分野を広げていけたらと考えている。
委員長	他の地域だと町会などが入るが、武蔵野市の場合は町会がないため、コミセン方式や、クリーンセンターの周辺・整備協議会に推薦されてこちらの運営会議に入っている委員もおられるので、他市にはない独特の表現かもしれない。
委員	委員長がおっしゃった回答と事務局が言ったことが違っているが、「協議会など」にはどんな団体が入っているのか。
事務局	今年度に関しては、先ほどお話したクリーンセンターの施設周辺・整備協議会の皆さんと検討市民会議の皆さんに加え、クリーンセンターの運営協議会にもご案内を差し上げている。
委員	「協議会など」について質問をしたのは、これを広げていくことを考えると、他で言うところの町会というところに入っていった方が良いと思った。資料４ 「エコプラザ（仮称）の概要について」８枚目の「３.エコプラザ（仮称）の運営について」の図に「情報共有」、「関係者が自由に参加」と書いてあるが、関係していなければそもそも参加できないのではないかと思う。連携会議に参加したい意思がある人であれば、参加できるという方が良いと考えている。言葉として「関係者が」というところが気になった。
事務局	先ほどお話したとおり、「関係者」というのは環境系の市民団体等を中心にお声がけをしている。その状態で既に連携会議は第１回 57 人、第２回 53 人と、非常に多くの方にご参加いただいている。 分野を広げたいというのは、先ほどの「つなぐ」でご説明したとおり、次年度以降は他の分野にも声をかけていきたいと考えている。環境のところだけに声をかけていると環境に関心のある人しか来なくなってしまうし、分野をつなげていった方がいろいろなことに関心のある方が来て、発信していただける可能性が広がる。そこも「進化しながら磨く」で会議の運営形態をどのようにしていくか、広がって人数が増えた時の連携会議のあり方というものを見据えないといけないと考えている。連携会議のあり方を考える回は３月に予定しており、次年度以降の広げ方についても、市民の皆さんと議論して決めていきたい。

委員	来年の 11 月までは建物ができていない。建物ができれば、いろいろな人が、誰でも連携会議に参加できるような仕組みになると思う。今は館がないため、まずはお声がけして集めているのが今のメンバー。オープンすれば、いろいろな人が参加する仕組みにしたいと思っている。まずは環境に関係している方を集めて母体をつくっていこうとうところ。別に限定をしている訳ではない。また、口コミで参加したい人がいれば、参加していただきたいと思うが、運営上の問題があることは理解していただきたい。
委員	今のご説明は違う観点から見ると、エコプラザ（仮称）に各ブースができて、いろいろな活動をし始めると、テナント会議のようなものをやって、エコプラザ（仮称）の運用の仕方を考えるのが、それが連携となっていくと考えて良いか。
委員長	そこまではまだいってない。
委員	資料４ 「エコプラザ（仮称）の概要について」８枚目の「３.エコプラザ（仮称）の運営について」９ページの運営会議で、一番大事だと思うのが、２月のプログラム・利用規則・評価指標のところ。ここをやはり、スタートラインとして、まずは粗々なものをつくっていきたい。
委員長	運営会議にも時間があったら参加していただき、２月に向けて利用規則を考えていきたいが、今は「ブースに区切って」というイメージはなく、まだ先走らなくて良いと思う。
委員	ブースだと固定化してしまうため、もっとフレキシブルに使えるような、ゆるいルールをつくっていきたいと考えている。そのルールを連携会議から集約して、フレシキブルに使える、理念に合致したルール化ができないかといった議論を運営会議でしていきたい。

7　エコプラザ（仮称）事業の進捗状況について

発言者	要旨
委員長	事業の進捗状況について、事務局よりお願いしたい。
事務局	資料５ 「エコプラザ（仮称）連携会議の実施状況について」、資料６ 「エコプラザ（仮称）プレ事業の実施状況について」、資料７ 「エコプラザ（仮称）年間スケジュール」について説明。
委員長	何か質問があれば出していただきたい。
委員	視察はしないのか。以前の検討で積み残した利用規約につながるところと思っている。参考資料「市の基本的な考え方」でも、資料４でも、プログラムやそれ以前のことなど、具体的な運営体制について書いてあ

	るが、あの施設を本当にどのように使うべきかという点はこれからの議論だと思う。議論する時の参考があれば良いと思っているが、これまで参加した中では十分ではなかったと思う。 　最近、地方都市に行くと、中高生が、公共施設のオープンスペースで勉強している。そうした公共施設がある都市は、学力の偏差値が高いようだ。地方都市は、東京ほどマクドナルドがないため、公共施設のオープンスペースを譲り合って勉強する光景がある。エコプラザ（仮称）ができた時に、事業をやっていないスペースで、中高生が勉強するのを認めるかというような議論はこれからだと思うが、個人的にはそれはすごく良いと思っている。図書館や、設置目的が勉強とは違う公共施設で、勉強を認めているというのも良い。こうした事例などがあると議論しやすいと思う。個人的に知っている事例もあるので、事務局だけでも見てきてほしい。
委員	参考になる情報があれば教えていただきたい。
委員長	地方都市に行くと図書館がカフェのようなデザインになっていて、複合施設も同じような状況があると聞いた。皆さんの集めた情報の中で利用規則に関わるようなものがあれば、事務局に教えていただければ、それぞれで見に行くこともできる。 　第１回ということで、こじんまりした会議で良かったと思う。これから年明けには、いろいろと見えてくるかもしれない。
事務局	次回の日程調整は、後日改めて行う。連携会議にも、よろしければご参加いただけたらと思う。また、「環境の学校」の周知などにもご協力願いたい。
委員	９月にクリーンセンターのエコマルシェがある。以前から一般の方向けにエコプラザ（仮称）を見学するエコプラザ（仮称）のツアーを実施している。建設費や運営費が高すぎるという意見があったため、ツアーの中で、建設費 5.5 億、年間運営費が約３千万円とご案内している。それを「高いと思う人？」と聞くと高いと答えた方がいたが、その隣りのクリーンセンターは、建設費 111 億円、年間の運営費が５億円である。クリーンセンターの運営費だけでエコプラザ（仮称）がつくれる。エコプラザ（仮称）を運営していく中で、ごみも大きなテーマとして、エコプラザ（仮称）の活動を通して、クリーンセンターで焼却するごみを減らしたいと思っている。周辺整備協議会では、30 年後にはごみを半分にしたいとしており、その結果、次のクリーンセンターを更新する時には、設備を半分にすればよくなるかもしれない。年間のごみ焼却にかかる費用が、2.5 億円で済むかもしれない。その浮いた 2.5 億円を、もっと豊

	かな市民生活のために使えるかもしれないということを、市民全体の目標にすると良いと思っている。 　９月 14 日のエコマルシェでも、エコプラザ（仮称）の見学ツアーをしたいと思っている。関心があれば、皆さんご参加願いたい。 　市の基本的な考え方である「ごみゼロ」という言葉が少し後退した印象があるが、それについては個人的にこだわっていきたいので、よろしくお願いしたい。
委員長	必要な情報は事務局を通すなど、ぜひ連絡し合って進めていただければありがたい。